

アスパラガス品種「さぬきのめざめ」の育成と 省力安定生産技術の開発による産地振興

池内 隆夫 氏（59歳）

香川県農業試験場 野菜・花き研究課 課長



1 業績の概要

背景

香川県は日本一小さな県であり、農家1戸あたりの耕地面積も全国平均の半分以上である。そのため、産地競争に打ち勝つための地域ブランドの確立による農業の活性化が求められている。さらに、香川県を含めた全国のアスパラガス産地では、「更新株の生育障害」の克服が可能な改植法の確立が課題であった。そこで、これまでにないアスパラガス品種の育成を進めると同時に、新品種を活かすための改植法（収益性が低下した既存株を新しい株に更新する方法）と省力かつ安定的な栽培法の開発に挑んだ。

研究内容・成果

育成した香川県オリジナル品種「さぬきのめざめ」は、通常サイズの2倍の50cm長で出荷可能で、その特別感からブランド品種としての地位を確立し「品種名」での差別化販売を定着させた(図1)。また、アスパラガス改植時に発生する生育障害を回避するため、既存の畝上に客土することで古い培土に含まれる生育阻害物質の拡散を抑制する「不耕起客土法」を開発し、改植後の生育障害課題を克服した(図2)。さらに本改植法を香川県独自の栽培法「柰板式高畝栽培」へと発展させた(図3)。本栽培法は作業者の収穫姿勢の改善、防除作業の機械化を可能とすることから、アスパラガス産地に着目され、全国展開が始まっている(図4)。さらに、耐風性と自然換気能力に優れ、ハウス内気温の上昇が抑えられる建設足場資材利用片屋根新型ハウス（NNハウス）を農研機構と共同開発し、アスパラガス生産での有効性を示し、近年の記録的な高温下での暑熱対策として期待され、全国の産地への導入が進んでいる(図5)。

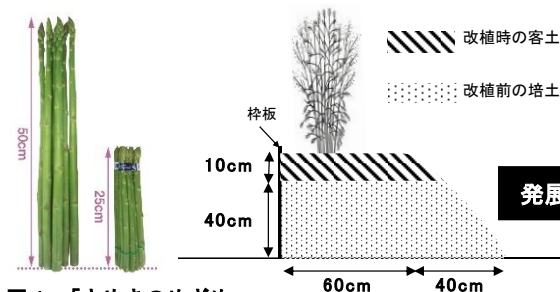


図1.「さぬきのめざめ」
左：さぬきのめざめ
右：通常品種

図2.不耕起客土法



図3.柰板式高畝栽培



図4.モノレール式作業台車と機械防除



高温対策施設



図5.NNハウス

(上：単棟低軒型、下：連棟アーチ型)

普及状況

育成品種「さぬきのめざめ（2005年品種登録）」は香川県内産地68ha（2023年）に普及し、現在も増加傾向が続いている。市場ではブランド品種として高値で取引され、地域ブランドの地位を確立した。改植技術である「不耕起客土法」は、「さぬきのめざめ」への品種の入れ替えも含めて香川県内産地で100箇所以上の導入実績があり、さらに「柰板式高畝栽培」は、香川県内のアスパラガス生産者の9割以上に、「NNハウス」は香川県を中心に全国3ヘクタールに導入されている。

2 評価のポイント

「さぬきのめざめ」は、これまでの施設アスパラガスの栽培法を大きく変える転換点となった革新品种であり、産地において「品種に優る技術なし」を体現し、香川県発の地域ブランド野菜として産地振興に大きく貢献している。アスパラガスの改植時の生育障害を大きく低減する「不耕起客土法」は香川県内に広く普及し、「不耕起客土法」の発展型として開発された「柰板式高畝栽培」は、香川県内にとどまらず、担い手不足傾向にある産地での規模拡大、産地活性化に大きく貢献する技術として全国に波及し、「NNハウス」はこれまでにない高温対策施設として、全国から注目され、着実に導入されており、その影響は極めて大きい。

【連絡先】香川県農業試験場

(住所：〒761-2306 香川県綾歌郡綾川町北1534-1 TEL：087-814-7311)